



中部人懇だより

令和5年度 第2号
令和5年8月発行
中部地区人権教育懇談会



「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年(昭和46年)に発足しました。

7月28日(金)に、学級担任の先生方を対象(参加者50名)として、第2回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

講義

「若者が語る部落問題～部落差別の現実から学ぶ～」

講師 倉吉市人権文化センター

指導員 中口 諒子 さん

所長 下吉 真二 さん



中口さんからは、人権学習との向き合い方の変化やそのきっかけ、思いなど、ご自分の体験をもとにお話をうかがいました。また、自分で行動してみて考えることの大切さをお話いただきました。『人を噂や偏見で判断しない』『関わって初めて知ることが出来る』という人権学習の根底にある考え方についても話してくださいました。

そして、『人権学習で大切なのは「気付き」であり、気付き考えて意見を共有し、また考えることをくり返す営みが人権学習である。自分事にするには大人も時間をかけて学ぶ必要がある。』と語ってくださいました。

キーワードは「学び合い」

- ・人権学習には大人も子どもも関係ない。
- ・正しい知識を学んで、たくさんの人に出会う、繋がる。
- ・人の考えを通じて自分を振り返る。
- ・自分の思い、考えを言葉にする。

下吉さんからは、部落差別が現在もあり今も闘っていることや、『見て見ぬふりをしているのは、差別はなくなる。だから差別と向き合うこと、闘うことが大切』ということを熱い想いを込めてお話いただきました。また、『全ての子ども達を加害者にも被害者にもしてはいけない、だから何が差別なのかを見抜き、それに対応する力を養うための学習の場が必要である』こともお話いただきました。

情報交換より

◆講義を受けて、児童・生徒にどのようなことを伝えていきたいか。

- ・大人の中でも「まあ、これぐらい。」と済ます実態がある。「おかしさ」に気づくこと、行動していくこと。
- ・自分の中の常識や固定概念で判断してしまっていないか、考えること。

◆各校で人権教育をどのように取り組んでいるのか。

- ・「みんな仲間」のリボンは、なぜこれをつけるのかを子どもたちに分かるように説明してつけるようにしている。
- ・本音が語り合える人間関係が築けるように日々の積み重ねを大切にしていきたい。

参加者の振り返り(一部)

○形を変えて今なお続く部落差別の現状が衝撃的でした。まさに、正しく知らなければ気付けない、気付けないと考えられないと感じました。偏見や固定概念を打破するのは教育しかないと思えて学び直すことができました。

○「自分事とするためには、繰り返し人権学習を行うことが必要」という言葉に元気をもらおうと同時に、1回でできなくても、繰り返しすることの大切さを改めて教えていただきました。

○自分がどう生きるのか、どんな人になりたいかが大切だと分かっているけど、行動できる人になるのは難しいと感じています。でも、どんな人でいたいのか考え続けられる人でありたいです。

○差別に気付く力をつけるために、日頃から理不尽なことに対しては、毅然とした態度で話し合いを積み上げていかなければならないと思いました。ネット情報に対する善悪の判断ができるように指導していきたいです。